

広報しばた10月17日号

人権・同和問題を考えよう

育てよう一人ひとりの人権意識

☎ 人権啓発課 (☎28-9630)
学校教育課 (☎22-9532)



全ての人が自分らしく生きられる社会を目指して

私たち全ての人間は、「人権」＝「自分らしく生きる権利」を持っています。

しかし、社会の中で一般的とされる多数派(マジョリティ)に対し、少数派(マイノリティ)の人たちは、いろいろな場面で自分らしく生きることができない状況に直面しています。



～「自分らしさ」が尊重されるために～

恋愛対象が同性あるいは両性の人、身体の性と心の性が一致しない人、自分の性自認が定まらない人など、いわゆるLGBTQ(性的マイノリティ)の人たちも、性的指向や性の自己認識が周りと異なるという理由で、好奇の目や偏見により、生きづらさを抱えています。

性的指向や性自認の種類は、人の数だけ多様に存在します。その傾向が自分と違うとしても、それは、おかしいものではなく、「その人らしさ」なのです。

近年は、「多様性の尊重」が求められていますが、こう

した性の多様性についても、私たち一人ひとりが理解し、尊重することで、全ての人が自分らしく生きることができる社会に繋がります。

11月11日(金)に、「性的マイノリティの人権」をテーマにした講演会を開催します。詳しくは、9ページ「人権啓発講座」をご覧ください。

広報しばた11月15日号

人権・同和問題を考えよう

育てよう一人ひとりの人権意識

問 人権啓発課 (☎28-9630)
学校教育課 (☎22-9532)



インターネットによる誹謗中傷の加害者とならないために

スマートフォンの普及により、インターネット上で気軽に自由なコミュニケーションをとることができるようになりました。一方で、不特定多数に向けて匿名で、特定の人の誹謗中傷を書き込んだり、その人のアカウントに対して一方的に誹謗中傷のメッセージなどを送ったりする事例が、深刻な社会問題となっています。

SNSをはじめとするインターネットを利用した誹謗中傷は、近年、質・量ともに深刻さを増し、2020年には女子プロレスラーの自死の問題を通じて、広く認識されるようになりました。その後、国民の意識の高まりなどから、2022年7月に侮辱罪の厳罰化が施行されました。

最近では、部落差別やヘイトスピーチなど、インターネット上の差別的な書き込みを監視する動きも全国的

に広がっています。たとえ顔は見えなくても、インターネットの向こう側にも同じ人間がいることを想像し、ルールやモラルを意識した正しい利用を心がけましょう。



加害者とならないための注意点

インターネットによる書き込みは、不特定多数の人に見られる可能性があるということを常に意識し、次の点に注意しましょう。

- ▼「誹謗中傷」と「批判意見」は違います
- ▼匿名でも書き込み主は特定されます
- ▼カットとなったとしても時間を置きましょう

参照：総務省ホームページ「上手にネットと付き合おう！～インターネット利用ガイド～」

広報しばた12月15日号

人権・同和問題を考えよう

育てよう一人ひとりの人権意識

問 人権啓発課 (☎28-9630)
学校教育課 (☎22-9532)



無意識から生まれる差別があります

「今どきの若い人は・・・」「女性にこの仕事は無理だ」「家事は女性がするもの」などといったふだん何気なく発している言葉が、職場や家庭において、人を傷つけたり、不平等を招いたりする原因となることがあります。

これらの言葉は、個人が無意識に持っている偏見や根拠のない思い込みによるもので、本人も差別的な意図があっ使っているわけではないので、問題に気づきにくいという現状があります。

自分の中の常識を見つめ直してみよう

人それぞれいろいろな価値観があり、考え方は自由です。しかし、自分が正しいと思っている常識がすべての人に当てはまるとは限りません。

長年の経験や知識により培った価値観や常識はなかなか変えられるものではないかもしれませんが、当たり前とされてきた事も時代や環境の変化とともに変わっていくように、自分の常識について見つめ直してみることも大切です。

「知ること、気づくこと」で、なくそう! 無意識の差別

人権意識は自然に身に付くものではありません。どのような言葉で傷つく人がいるのか、どのような考えが偏見ととられるのか、言動に気を付けたり、知識を得たりすることで、無意識に相手を傷つけることを防げます。

自分の価値観に固執せず、いろいろな人の声に耳を傾け、意識を少し変えてみることで、周囲にとっても自分自身にとっても、より暮らしやすい社会になるのではないでしょうか。

広報しばた1月20日号

人権・同和問題を考えよう

育てよう一人ひとりの人権意識

問 人権啓発課 (☎28-9630)
学校教育課 (☎22-9532)



女性の権利「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」をご存じですか？

「望まない性行為を強要される」「性感染症にかかってしまった」「予期せず妊娠してしまった」「早く子どもをつくれと親から言われる」……。これらは、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」という女性の権利に反するものです。

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」とは

「性と生殖に関する健康と権利」と訳され、1994年にカイロで開催された国際人口開発会議において提唱され、性と生殖に関する健康・生命の安全を、女性のライフサイクルを通して、権利としてとらえる概念です。

- ▼リプロダクティブ・ヘルス…性や子どもを産むことに関わる全てにおいて、身体的にも精神的にも社会的にも本人の意思が尊重され、自分らしく生きられること
- ▼リプロダクティブ・ライツ…自分の身体に関することを自分自身で選択し、決められる権利のこと

この概念で示す権利の獲得は、全ての人々がジェンダーに基づく暴力などによって傷つけられず、身体・性について正しい認識を持ち、生涯にわたって選択が尊重される社会を創造していくためのものです。

当事者である女性自らが、「私のからだは私のもの」「産む・産まないは女性の自己決定」という認識のもと、自分が納得のいく意思決定をする権利があります。

この概念を理解し、身体や性について正しい知識を身に付け、「自分のからだは自分で守ること」から実践していきましょう。そして、家族やパートナーにもその大切さを伝えていきましょう。

広報しばた2月15日号

人権・同和問題を考えよう

育てよう一人ひとりの人権意識

問 人権啓発課 (☎28-9630)
学校教育課 (☎22-9532)



学校と社会がともに進める同和教育

人権教育、同和教育は、特色ある新発田の教育の1つです。毎年、同和教育研究指定校が取組の成果を発表しています。今年度は、佐々木中学校の2年生が「差別や偏見を許さない自分の生き方」、3年生が「差別や偏見のない社会」を主題に、差別や偏見を自分事として捉えようとする公開授業を行いました。

社会教育の取組では、年3回「同和问题PTA講座」を開催しています。今年度は、加治川・紫雲寺中学校区を対象に、第1・2回は、指導主事や同和问题当事者の方の講話、第3回は、ヒューマンバンド「熱と光」代表の宮崎 保^{ほむ}さんを講師として「ちょっと心をかしてくれませんか」をテーマに、演奏を盛り込んだ講演会を行いました。母親が差別によって文字を奪われたことや自身の差別体験、差別を乗り越える生き方やさまざまな取組の語りが、歌詞に込められた言葉とともに参加者の胸に強く響く内容でした。



研修会後の参加者の感想

- ▼「自分には関係ない」という私自身の心が見透かされているようで、これからは、「関係ある」に変えていかなければと思った
- ▼親子の関係を考えながらお聞きした。親として、子どもが悩んでいるとき、いっしょに考え、答えを見つけていきたいと思う

市教育委員会では、「人権感覚を高める人権教育、同和教育」を推進しています。

広報しばた3月15日号

人権・同和問題を考えよう

育てよう一人ひとりの人権意識

問 人権啓発課 (☎28-9630)
学校教育課 (☎22-9532)



「誰か」のことじゃない

「人の世に熟あれ、人間に光あれ」。皆さんは、この言葉を聞いたことがありますか。

これは、大正11年3月3日、被差別部落の人々の解放を目指して設立された「全国水平社」の創立大会で読み上げられた「全国水平社宣言」の最後の一節です。昨年、同宣言から100年という節目の年でした。

宣言から100年経った今日は、同宣言が目指したあらゆる差別を許さず、誰もが一人の人間として尊重される社会になっているでしょうか。今は、これまで見過ごされていた各種ハラスメントや、LGBTQの問題、また、コロナ差別の問題など、世の中のさまざまな問題が人権問題として認識されるようになってきたことを考えると、人権尊重の意識が高まってきていることは確かです。しかし、インターネットやSNS上での誹謗中傷、

ヘイトスピーチ、悪質な身元調査など、新たな人権問題も発生しています。

こうした問題は、ある日突然、あなたやあなたの身近な人に降りかかってくる可能性がある、誰にでも起こりうる問題です。差別や偏見の問題は、遠いところや昔の問題ではなく、今、ここにある問題なのです。

今年度、法務省の啓発キャッチコピーは、「『誰か』のことじゃない。」です。皆さんは、自分以外の「誰かのこと」、「自分には関係のないこと」と考えていませんか。差別や偏見の問題を「自分のこと」と考えることが、差別や偏見のない社会をつくる第一歩となります。

